

人口変動が突きつける 日本の将来

NIRA総研

研究会メンバー

森田 朗 津田塾大学総合政策学部教授(座長)

岩本康志 東京大学大学院経済学研究科教授

小塩隆士 一橋大学経済研究所教授

鈴木 準 株式会社大和総研政策調査部長

田宮菜奈子 筑波大学医学医療系教授

福井唯嗣 京都産業大学経済学部教授

柳川範之 NIRA総研理事/東京大学大学院経済学研究科教授

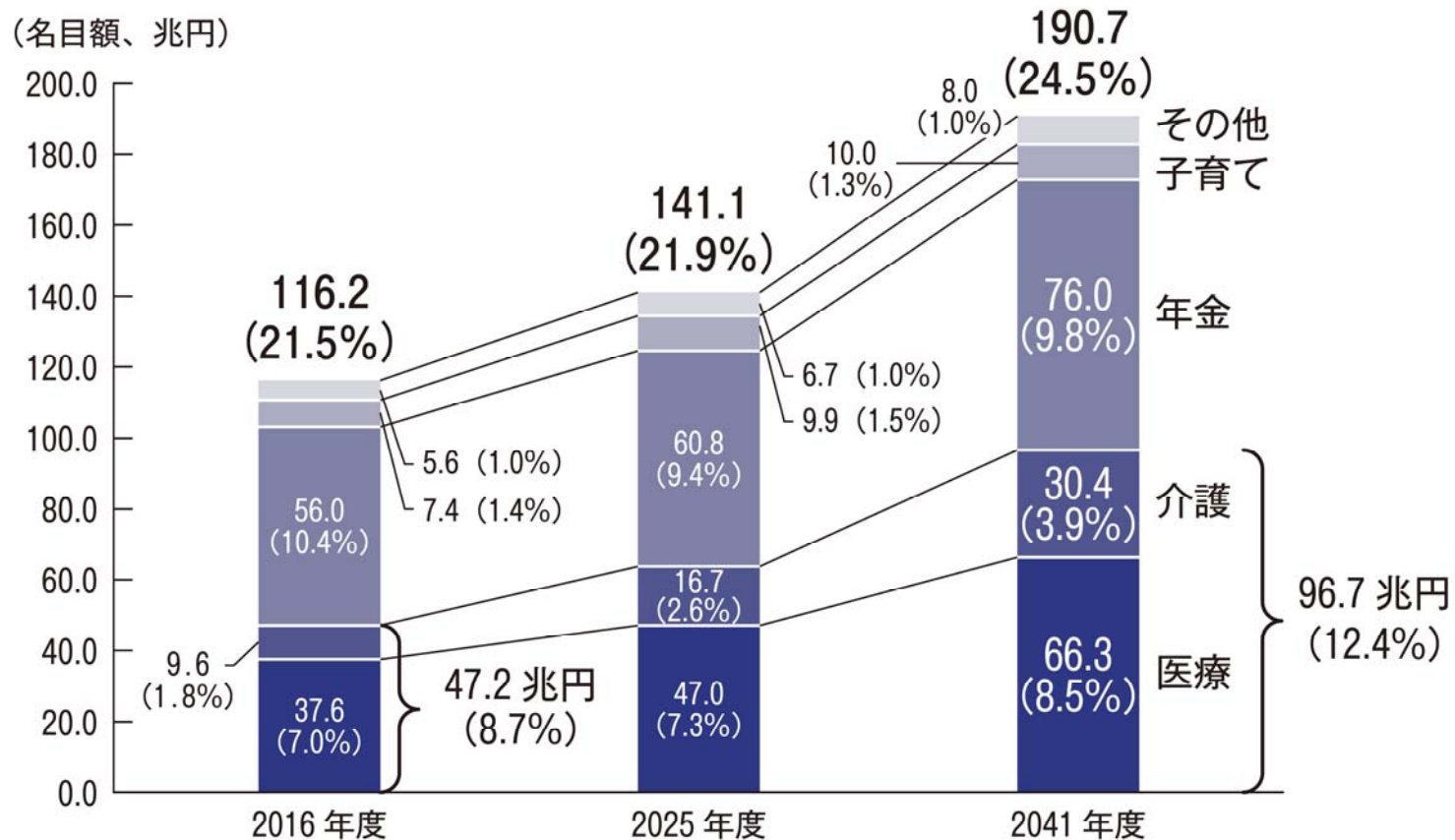
推計の目的: 確実に訪れる将来像を直視する

- 現在計画されている政策が想定通り実施され、効果が生じるという前提。
 - 推計の終期は2041年。それほど遠い将来ではない。
 - 医療・介護の政策立案サイクルに合わせて終期を決定(適正化計画6年、介護保険事業計画3年。適正化計画4回分=24年間経過)。
- 特に、人口構造の変化がもたらす影響を具体化。
 - 確実に訪れる将来を直視する。
- ぴたりと「当てる」ための推計ではない。
 - 今後の政策をより良い方向に進めていくための議論の土台を提供することが大きな目的。

推計結果のポイント

- 社会保障給付費(対国内総生産比)は、2016年度の**21.5%**から、2041年度の**24.5%**へ、**3%**ポイント上昇する。
 - 消費税率で6%分の税収に相当する。
 - 名目額で116.2兆円から190.7兆円への増加。
- 人口構造の変動に着目した推計を実施(医療・介護費用の増加が顕著)。
 - 年金 マクロ経済スライドにより、若干の減少。
 - 子ども・子育て いったん増加した後、減少し、ほぼ同水準。
 - 医療 **1.5%**ポイント増加する。
 - 介護 **1.9%**ポイント増加する。
 - より高齢の人口が相対的に増えていくため。
 - 公費負担の伸びが保険料の伸びよりも大きい。
- 給付・負担構造の見直しに加えて、さらなるリスクに直面する人々への対応など、課題は多岐にわたる。
- いま突きつけられている現実的な将来像に目を向けて、確実に政策を押し進めることが急務である。

図1 社会保障給付費の将来見通し



(注) 金額は名目額、カッコ内は対名目GDP比を示している。「その他」は、「社会保障費用統計」の給付費から医療・介護・年金・子育てを除いた額を各年の対GDP比で一定とおいている。

(出所) 厚生労働省その他公開資料、および内閣府「中長期の経済財政に関する試算(2018年1月23日)」を用いて推計。

現役世代にのしかかる負担

表1 医療・介護の公費負担と保険料負担の推移

	2016 年度	2041 年度	変化率 (対 2016 年度)
公費負担 (対 GDP比)			
合計	3.5%	5.5%	1.6 倍
医療	2.5%	3.4%	1.3 倍
介護	1.0%	2.1%	2.2 倍
保険料負担 (対 GDP比)			
合計	4.5%	6.0%	1.3 倍
医療	3.7%	4.3%	1.1 倍
介護	0.8%	1.7%	2.2 倍

(注) 医療・介護保険財政モデルに基づく、保険対象給付に対する負担の推計値（医療は国民医療費の中の医療保険対象となる医療費に対する負担であり、図1とは範囲が異なる）。公費負担は、協会けんぽ、国民健康保険、後期高齢者医療制度、介護保険の給付費に対する国・地方の負担、後期高齢者医療制度支援金、介護保険納付金に対する国・地方の負担からなる。変化率は四捨五入の関係で表記された値とは必ずしも一致しない。

(出所) 図1と同。

推計の手順：医療・介護

- 岩本康志・福井唯嗣が開発した「医療・介護保険財政モデル」を用いて推計。
- 年齢階層別の1人当たり医療・介護費用に人口を乗じる。
- 中長期的な人口構造変化が医療・介護費用に与える影響を見る。

- 考慮した政策
 - 医療：第3期医療費適正化計画等。
 - 介護：厚労省・一体改革推計に基づく充実化と、入院から介護への移行（人数は適正化計画ベースに調整）。

- 経済前提（全体で共通）
 - 内閣府・中長期試算（2018年1月）のベースラインケース。
 - 賃金成長率は、上記に基づき医療・介護保険財政モデルで推計。

推計の手順：医療・介護

・ 年齢階層別の1人当たり医療・介護費用(2016年度)

- ・ 岩本康志・福井唯嗣「医療・介護保険財政モデル(2018年3月版)について」より。
- ・ 岩本康志HP「[医療・介護保険財政モデル・ホームページ](#)」内で公開。

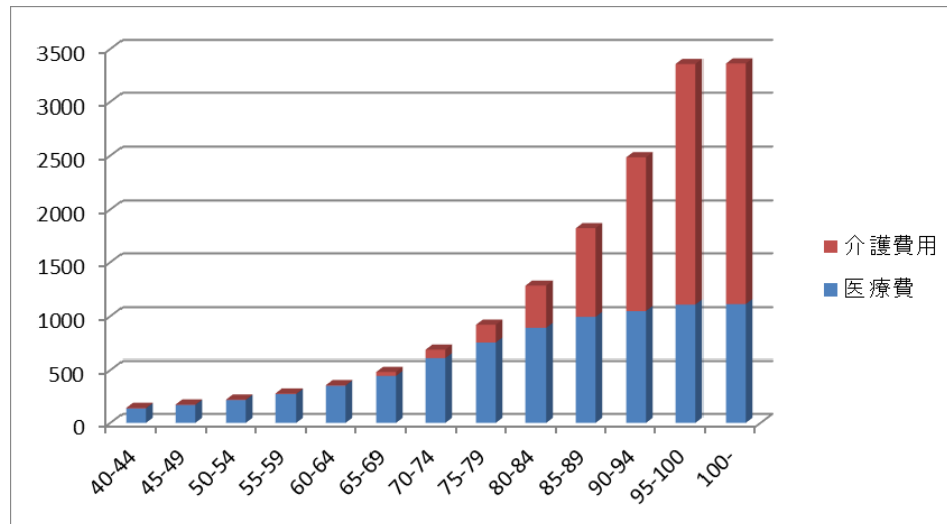


表 年齢階層別の1人当たり医療・介護費用(2016年度)

(単位：円)

年齢階層	医療費	介護費用
0-4	218,000	
5-9	122,000	
10-14	92,000	
15-19	71,000	
20-24	72,000	
25-29	91,000	
30-34	108,000	
35-39	121,000	
40-44	137,000	5,000 (40-64)
45-49	169,000	
50-54	216,000	
55-59	273,000	
60-64	352,000	
65-69	444,000	38,000
70-74	603,000	80,000
75-79	750,000	169,000
80-84	890,000	399,000
85-89	993,000	830,000
90-94	1,048,000	1,436,000
95-99	1,109,000	2,248,000 (95-)
100-	1,114,000	

注) 保険給付費と自己負担を合わせた総費用の年齢階層別1人当たり金額である。千円以下は四捨五入。

医療費：『医療保険に関する基礎資料』(厚生労働省)の2015年度の年齢階層別医療費の相対的分布について、総額が『医療費の動向調査』(厚生労働省)による2016年度の医療保険対象となる医療費と一致するように調整した。

介護費用：『介護給付費実態調査月報』(厚生労働省)の2016年4月～2017年3月審査分の年齢階層別費用の相対的分布について、総額が介護保険特別会計経理状況での2016年度の費用(地域支援事業費を含む)の筆者予測値に一致するように調整した。資料では、40～64歳、95歳以上は一括して表示されている。

推計の手順：年金、子育て

• 年金

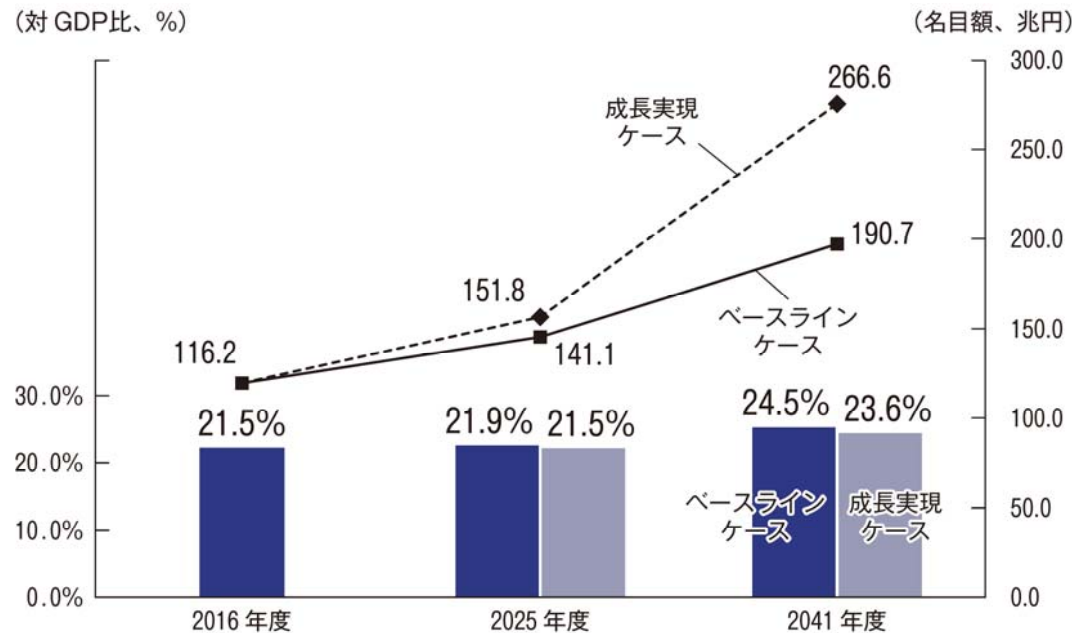
- 経済前提にあわせてマクロ経済スライドが発動される前提。
- 2014年度財政検証の想定をベースに、公的年金給付費の基礎年金、被用者年金(厚生年金)を2041年まで推計。国民年金は別途人口減少率を反映して試算(東京財団版長期財政推計ツールの推計方法を参考とした。ただし、マクロ経済スライド調整の反映方法等を変更)。
- 社会保障費用統計ベースのその他の年金給付(恩給等)を別途試算し、上記と合算した金額を提示。

• 子育て

- 厚労省・一体改革推計がベース。項目ごとに子ども人口減少を踏まえて試算。
- その後の政策目標(「少子化社会対策大綱」「子育て安心プラン」等)を考慮。
- 「新しい経済政策パッケージ」における子育て関連政策を可能な範囲で考慮。

経済成長しても医療・介護の費用も上昇するので、負担はそれほど下がらない

図2 社会保障給付費見通し、ベースラインケースと成長実現ケースの比較



(注) 棒グラフは対GDP比(左軸)を、折れ線は名目額(右軸)を示す。
(出所) 図1と同。

「単価の伸び率」の想定

医療(2025年度まで)

1.8% + 名目経済成長率/3
(2023年までは第3期医療費適正化計画を考慮して伸び率を調整)

介護(2025年度まで)

賃金上昇率 × 65%

+ 物価上昇率 × 35%

医療・介護(2026年度以降)

賃金上昇率

(賃金上昇率は2027年度までは2018年1月の内閣府中長期試算に基づいて医療・介護保険財政モデルで推計。27年度以降は最終年度の値で一定)

今後必要となる論点

- ある程度の負担構造の見直しは避けられないのではないか。
 - 人口構造の変化にフォーカスした本推計の結果だけでも、消費税率で6%分の税収に相当する給付規模の拡大。
 - 現状抱える巨額の国と地方の基礎的財政収支赤字。さらに、医療・介護給付の半分程度が公費負担であることも考慮すべき。
- **介護：** 高齢者の中の高齢化が進むことを受けて、費用の増加幅は医療よりも大きい。具体的な政策、制度のあり方にもっと関心を向けるべき。
- **医療：** 高度化の進展により急激な費用増が生じれば、推計値を超えて上振れする可能性も。
- **年金：** マクロ経済スライドによる調整等の影響で、将来的には一定の高齢者に給付額不足の可能性も。
 - 2040年時点で未婚・離婚高齢女性の約4割が生活扶助水準以下の収入になることを示唆した試算も(稲垣誠一「高齢女性の貧困化に関するシミュレーション分析」『年金と経済』第35巻3号:3-10、2016年)。

むすびに代えて

- 提供体制の見直し、生産性の向上
 - 医療・介護の質を落とさずに支出を抑えるため、提供体制の見直しをさらに進める。
 - 生産性の向上のみならず、コスト削減にもより積極的に取り組むことが必要。
 - 介護は公的サービスのみならず、介護を必要とする人々の家族など、周囲の人々への影響も必要。
- おわりに
 - 今後経験する人口構造の変化は、社会のあり方をも変えうる変化。
 - 給付・負担構造の見直し、さらなるリスクへの対応など、課題は山積。
 - 本推計が描く現実的な将来を直視したうえで、議論・政策を前に進めていくことが急務。